

## V 市民参加事業

第2次戦略ビジョンの策定に当たっては、市民を対象としたアンケートやワークショップを実施するなど、市民参加の取組を積極的に進めてきました。

これらの取組を通していただいたご意見は、第2次戦略ビジョンの内容に反映させています。

### ○市民参加事業の概要

	事業	概要
1	学校等での意見交換会・ 出前講座 【令和2年12月～ 令和5年8月】	札幌市内の学校や大学において、札幌市の取組の説明や意見交換会を実施
2	今後の札幌のまちづくり を考えるシンポジウム 【令和3年3月】	札幌市の将来的なビジョンについて考えるシンポジウムを実施 (動画配信)
3	市民アンケート 【令和3年8月】 【令和4年12月～ 令和5年1月】	まちづくりに関する市民の意識などについてアンケートを実施
4	市民ワークショップ 【令和3年9月】 【令和4年6～7月】 【令和5年7月】	札幌市のまちづくりなどについて考えるワークショップを開催
5	子ども議会 【令和3年10月～ 令和4年3月】 【令和4年10月～ 令和5年1月】	札幌市内の子どもたちが「子ども議員」として、札幌市のまちづくりについて考え、話し合った内容を発表する取組を実施
6	若手起業家とのトークイ ベント 【令和4年3月】	札幌市内・北海道内の若手起業家が中心となって活動する団体が主催するトークイベント（Facebookのライブ配信あり）において、ビジョン編について説明を実施
7	U35-SAPPOROとの連携 【令和4年5月】 【令和5年1月】	概ね22歳から35歳の世代が集い、繋がりが生まれるプラットフォーム「U35-SAPPORO」と連携し、キックオフイベント参加やトークセッション・ワークショップを開催
8	まちづくりコンペティション 【令和5年3月】	市立高等学校の生徒を対象に、第2次戦略ビジョンやSDGsなど、様々な観点からの「まちづくり」に関する提案を募集し、8組のグループより発表

※このほか、経済団体などに向けて、計画案の内容について説明や意見交換を行いました。

## 1 学校等での意見交換会・出前講座

札幌市内の学校や大学において、札幌市の取組の説明や未来のまちづくりに関する意見交換を実施しました。

学校名	札幌市立常盤中学校		
実施日	令和2年12月17日(木)	参加者数	67名
内容	3年生の「総合的な学習の時間」における取組として、環境や観光、教育などをテーマに札幌市が抱える課題の解決について検討し、生徒一人一人が「札幌市への提言」を発表しました。		
主な提言内容	「札幌の魅力を全国に発信」、「イベントを増やして観光客を増やす」、「幅広い世代の交流の場を増やす」、「市民の防災意識を高める」、「生活環境のバリアフリー化」、「労働時間を減らし子育てに配慮できる社会を」、「中学生の運動能力を高める」、「エネルギーに困らない持続可能なまち」、「フードロスを減らす」、「防犯のために街灯や監視カメラを増やす」、「ポイ捨てを防ぐ」 など		

学校名	北海道札幌北高等学校		
実施日	令和3年7月29日(木)	参加者数	4名
内容	家庭クラブにおける「持続可能な住環境(まち)」の研究活動の一環として、まちづくりに関する校内アンケートの結果や第1次戦略ビジョンを題材に、高校生と札幌市職員による意見交換を実施しました。本取組の内容は、北海道高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会における発表にも活用されました。		
主な意見	「持続可能な住環境(まち)をつくるために、今から行動できる防災意識の必要性を感じた」、「まちづくりを自分事として捉えられるように、校内でも周知をしていきたい」 など		

学校名	市立札幌大通高等学校		
実施日	令和3年10月5日(火)	参加者数	9名
内容	生徒一人一人が検討した「札幌未来予想図」を基に、有志による発表会を開催しました。観光、交通、まちなぎわいづくり、子育てや雇用について、札幌市職員と意見交換を実施しました。		
主な発表内容	「働きやすいまちの実現に向け、保育環境の充実と情報産業を中心に仕事の創出が必要」、「安全や健康の観点から、歩行者・自転車中心のまちなかがよい」「体験型観光のアイデアがあるので起業したい」 など		

学校名	札幌市立もみじ台南中学校		
実施日	令和3年10月7日(木)	参加者数	32名
内容	「まちづくり戦略ビジョン～まちづくりの基本的な指針～」をテーマに、札幌市の施策や事業についてオンライン形式で講座を実施しました。		
主な感想・関心を持ったこと	「使用しなくなった公共施設について、今後どのようにしていくのか」、「今後、高齢者の方が増えてくるとあったが、札幌市としてどのような取組を進めていくのか」、「スーパーやショッピングセンターなどの建物を、どのように配置していくのか」など		

学校名	北海道大学		
実施日	令和4年8月2日(火)	参加者数	247名
内容	北海道大学新渡戸カレッジと連携し、学生からまちづくりに関する提案をしていただく特別講義を実施しました。		
主な発表内容	「スタートアップ拠点の設置、オフィスの貸し出し等により、雇用面から人口減少を防ぐ」、「子育てや冬季の生活、就職・転職等を支援することで、札幌市を出た若者が帰ってきたくなるまちにする」、「姉妹都市を軸に海外企業の誘致や連携を進め、大学で学んだことを生かして働ける企業を増やす」など		

学校名	札幌市立大谷地小学校		
実施日	令和4年9月29日(木)	参加者数	92名
内容	6年生の「総合的な学習の時間」における取組として、「札幌市の人口が減っていく中でどんなことができるだろうか」をテーマに、子どもたちが考えたまちづくりのアイデアの発表会を実施しました。		
主な発表内容	「観光客に向けて札幌市の魅力をもっと発信するためにSNS等を活用する」「移住者向けに、札幌市の住みやすさをまとめたパンフレットなどを作成する」「札幌市が子育てしやすいまちということをアピールする」など		

学校名	市立札幌大通高等学校		
実施日	令和4年10月5日(水)	参加者数	5名
内容	生徒一人一人が検討した「札幌未来予想図」を基に、有志による発表会を開催しました。共生、健康、教育などについて、札幌市職員と意見交換を実施しました。		
主な発表内容	「多国籍、他年代の交流が盛んなまちの実現に向け、様々な人が文通をする企画があると良い」「札幌市の健康課題の解決に向けた、健康診断の義務化や病気等に関する知識の普及」「教育における選択肢の多様化に向けフリースクールの無償化」など		

学校名	札幌市立新琴似小学校		
実施日	令和5年3月15日(水)	参加者数	95名
内容	5年生の授業の一環として、札幌市の人口についての課題や、第2次戦略ビジョンの方向性と、SDGsとの関連性などをテーマとした講演を実施しました。		
主な感想	「もっと若者や高齢者が住みやすいまちになってほしい」「人、雪、みどりを大切にして、自分ができるSDGsに取り組んでいきたい」 など		

学校名	札幌市立手稲鉄北小学校		
実施日	令和5年6月7日(水)	参加者数	90名
内容	6年生の授業の一環として、札幌市の人口についての課題や、第2次戦略ビジョンの方向性と、SDGsとの関連性などをテーマとした講演を実施しました。		
主な感想	「雪やみどりとといった札幌のまちの魅力を国内外にアピールする」「もっとバリアフリーを進めて高齢者や障がいのある人が暮らしやすいまちになってほしい」「スポーツを楽しみながら、健康に長生きできるまちになってほしい」 など		

学校名	札幌市立東栄中学校		
実施日	令和5年7月13日(木)	参加者数	140名
内容	3年生の授業の一環として、第2次戦略ビジョンをテーマに講演を実施しました。		
主な意見	「除排雪を改善してほしい」「札幌市に愛着を持つ若者が多くいるまちにしていきたい」「小さい子どもが安全に遊べる施設を増やしてほしい」 など		



学校名	北海道大学		
実施日	令和5年8月1日(火)	参加者数	313名
内容	北海道大学新渡戸カレッジと連携し、学生からまちづくりに関する提案をしていただく特別講義を実施しました。		
主な発表内容	「雪を水資源や冷房用エネルギーとして有効活用することで、環境に優しいだけでなく、産業競争力の強化にもつなげる」「再生可能エネルギーの活用とEV車の普及により、二酸化炭素排出量が少ないクリーンなまちにする」 など		

## 2 今後の札幌のまちづくりを考えるシンポジウム

人口構造の変化などの大きな転換点を迎える2030～2040年代を見据え、札幌市の将来的なビジョンを市民の皆様と一緒に考えるため、シンポジウムを実施しました。

このシンポジウムは「基調講演」と「トークセッション」の二部構成からなり、動画配信の形式を採用した上でYouTubeにおいて期間限定配信をするとともに、配信開始に先立ち、先行上映会を開催しました。

### ○開催概要

配信方法	札幌市公式YouTubeチャンネルにおいて期間限定配信	
配信期間	令和3年3月22日（月）～6月21日（月）	
<b>1 基調講演(市政アドバイザー:寺島 実郎氏)</b>		
内容	人口減少などに対し「健全な危機感」を持つことの重要性や、北海道・札幌のポテンシャルを生かした新たな産業構造への転換の必要性などについてご講演いただきました。	
視聴回数	1,692回	
<b>2 トークセッション</b>		
内容	基調講演を踏まえ、札幌市長と各界を代表する方々が、札幌市のまちづくり・未来について語るトークセッションを実施しました。	
トークセッション登壇者	札幌市長 秋元 克広 札幌商工会議所会頭 岩田 圭剛 氏 札幌大谷大学社会学部教授 梶井 祥子 氏 クリエイティブオフィスキュー 鈴井 貴之 氏	
視聴回数	3,487回	

<b>先行上映会</b>	
日時	令和3年3月21日（日）13:00～15:00
会場	道新ホール
内容	シンポジウムの上映のほか、札幌市長とクリエイティブオフィスキューの鈴井 貴之氏によるオープニングトークを実施しました。
参加者数	100名

### 主な意見(先行上映会の来場者アンケート・YouTube視聴者用WEBアンケートより)

少子化や人口減少の危機感がなく、周りでも子どもがいなくてもいいという友人が多い。仕事に割く時間が多いこともある。危機感を持つことも大切だが、政策として子育て支援をしてほしい。

公共施設のコンパクト化が札幌市の未来のために大事だと考える。建物（道路含め）が多いとメンテナンスコストが若い人の負担になる。

障がいのある子どもを育てている。優しい目、温かい目で見てもらえる世の中であってほしい。

子どもたちが元気で遊び、また、高齢者が生き生きと生活できる、周りが安心して過ごせる素敵な「まち」になってほしい。

2030年の新幹線札幌開業に向けて、若い人が定住や働きたいと思える産業の創出やみどり（公園など）あふれるまちになってほしい。

## 3 市民アンケート

### (1) R3年度市民アンケート

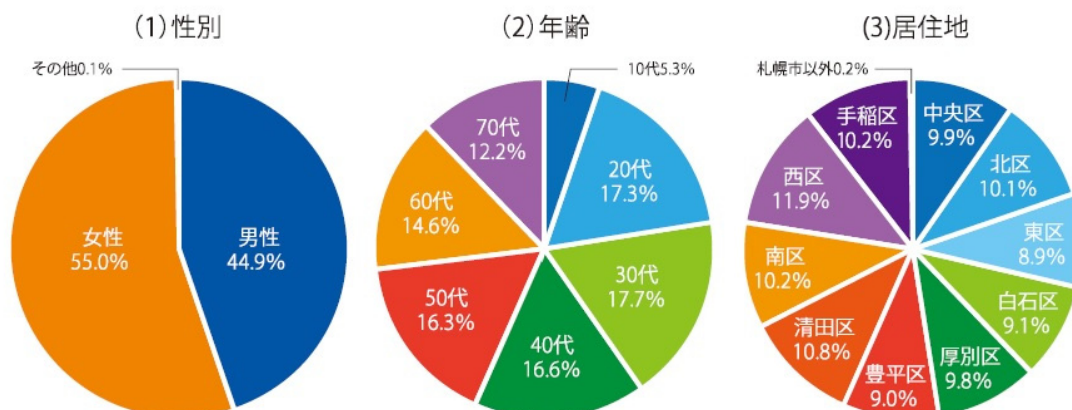
市民1万人を対象に、第1次戦略ビジョンに掲げる7つのまちづくりの分野と、24のまちづくりの基本目標に関する取組について、「現在までの充実度」と「今後の重要度」がそれぞれの程度とを感じるかアンケート調査を実施しました。

#### ○調査概要

調査期間	令和3年8月3日（火）～8月19日（木）
調査対象者	18～75歳の札幌市民の中から各区分・年代別・性別ごとに無作為抽出した計1万人
調査方法	調査対象者にアンケートを送付し、郵送・WEBフォームにて回答を求めた。
回答数	2,273（回答率22.7%）

#### ○調査結果

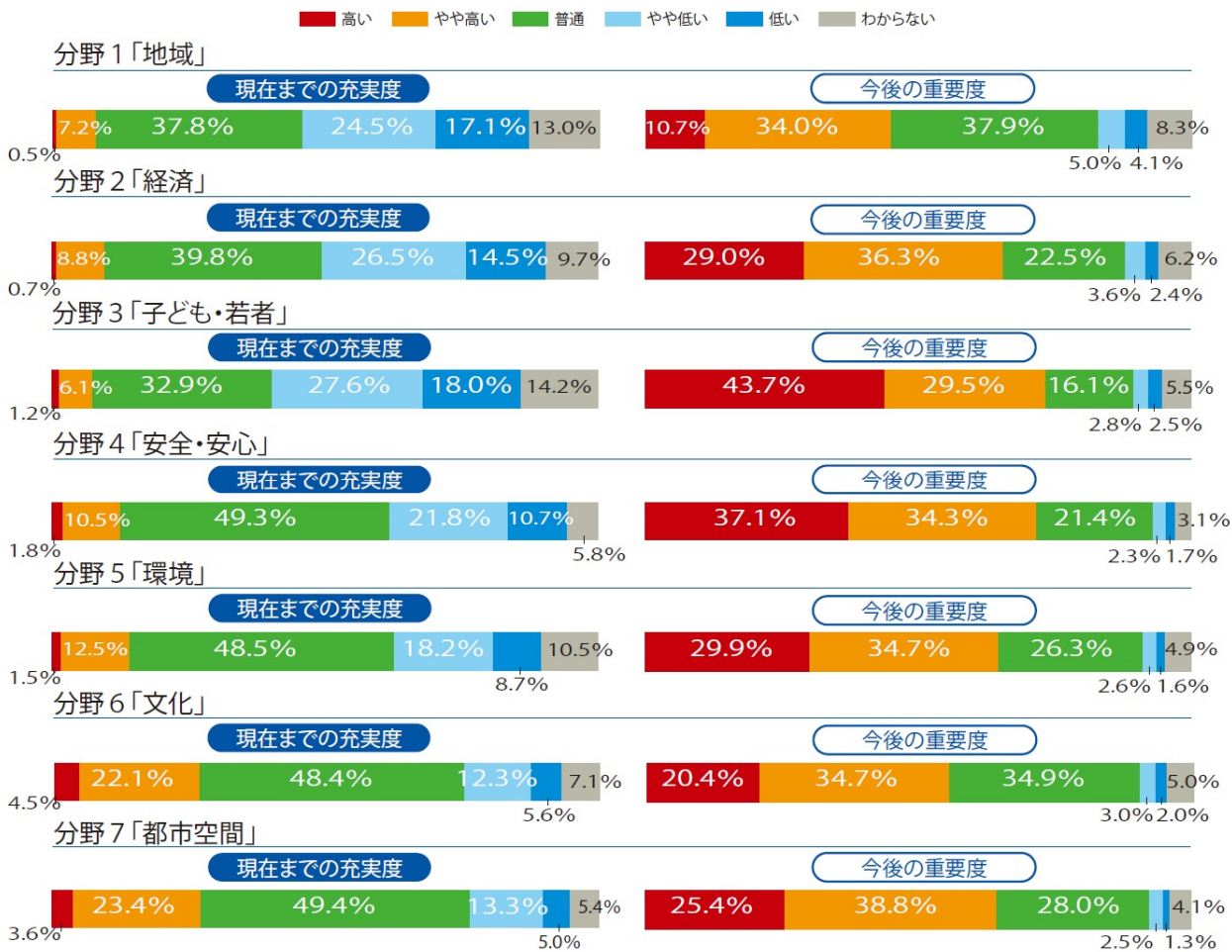
##### ①回答者の属性



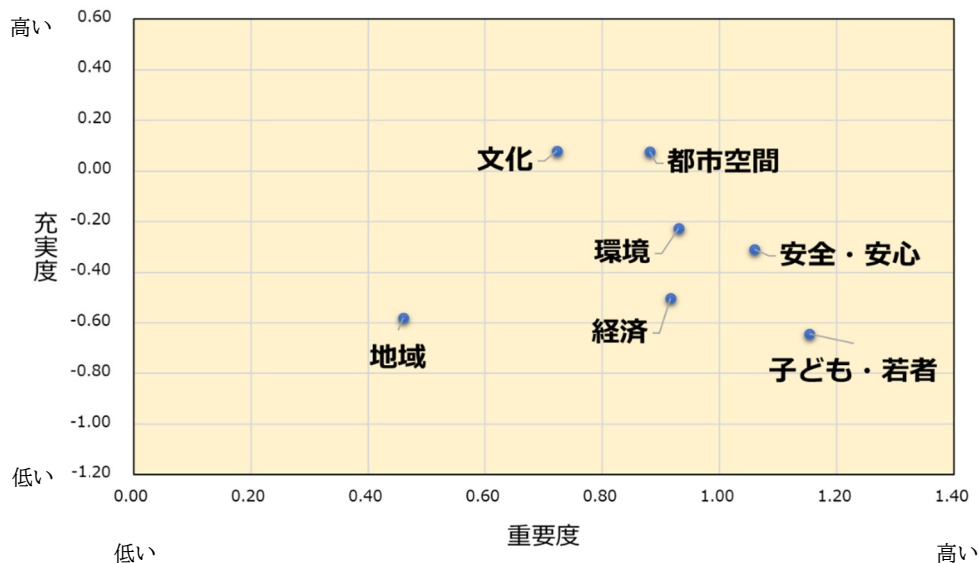
※ 表記の割合（%）は選択肢ごとに小数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

### ②充実度と重要度について（各分野の総合的な評価）

第1次戦略ビジョンに掲げる7つのまちづくりの分野について、「現在までの充実度」と「今後の重要度」がそれぞれどのくらいと感じるか、「高い」・「やや高い」・「普通」・「やや低い」・「低い」・「わからない」の中から回答を求めました。



### ③各分野の比較（各分野の回答を点数化し、加重平均値を算出）



#### ④現在までの充実度

第1次戦略ビジョンに掲げる24のまちづくりの基本目標に関する取組について、「現在までの充実度」がどのくらいと感じるか、「高い」・「やや高い」・「普通」・「やや低い」・「低い」・「わからない」の中から回答を求めました。下の表は各回答を点数化し加重平均値を算出したものです。

※配点…「高い」2点、「やや高い」1点、「普通」0点、「やや低い」-1点、「低い」-2点  
「わからない」は除外

順位	取組	加重平均値
1	【経済】北海道の食の魅力を生かした食産業が発展している	0.57
2	【文化】雪やウィンタースポーツを楽しむ環境が整っている	0.36
3	【都市空間】地下鉄や路面電車沿線では、買い物・通院などの生活利便性の高い暮らしの場が形成されている	0.35
4	【都市空間】うるおいや安らぎを与えるみどりと、憩いや交流の場として活用される公園などがあり、良好な都市景観が形成されている	0.32
5	【環境】森林、農地、公園などのみどりの保全や、うるおいを与える河川などの水環境の保全がなされている	0.21
6	【都市空間】都心には経済・文化・交流など多様な活動を支える場があり、人を中心とした魅力ある空間が形成されている	0.19
7	【都市空間】地下鉄の始発駅などのエリアでは、にぎわいと生活利便性を高める施設が多くあり、その地域の中心となっている	0.18
8	【都市空間】郊外部の住宅地では、ゆとりのある良好な環境を生かした暮らしの場が形成されている	0.16
9	【経済】国内外から多くの観光客が訪れて、経済が活性化している	0.07
10	【文化】魅力ある札幌の文化やライフスタイルが国内外に発信されている	0.06
11	【都市空間】都心には公園や街路樹のみならず、建物内においてもみどり豊かな空間が形成されている	0.05
12	【環境】自然環境を守り育むことなどにより、生物多様性(生きもののつながりのこと。生きもの全て直接、間接的に支えあって生きていること。)が保全されている	0.04
13	【文化】文化芸術を気軽に楽しめる環境が整っている	0.04
14	【都市空間】公共交通の利便性が高まっており、積極的に公共交通を利用している	0.04
15	【環境】市民や企業などが、積極的にごみの減量やリサイクル・資源の再利用を行っている	0.02
16	【文化】スポーツや運動を気軽に楽しめる環境が整っている	0.02
17	【安全・安心】身近な医療体制や、救急時の医療体制が整っている	0.02
18	【安全・安心】公害の少ないまちが実現している	-0.01
19	【安全・安心】食の安全に留意し、誰もが健やかで豊かな食生活を送っている	-0.06
20	【文化】魅力的な文化芸術イベントが活発に開催されている	-0.09



順位	取組	加重平均値
21	【都市空間】 公共施設については、白石区役所のように、区民センターやえほん図書館等その他の施設を複合化するなど、効果的かつ効率的な再配置が進められている	-0.11
22	【文化】 魅力的なスポーツ関連イベントが活発に開催されている	-0.14
23	【文化】 生涯学習(興味関心や課題に応じて自発的に行う、生涯を通じた学習活動)の環境が整っている	-0.16
24	【安全・安心】 健康・医療・福祉に関する相談・支援体制が整っている	-0.16
25	【都市空間】 道内市町村や国内・海外との交流を支える交通ネットワークが整備されている	-0.20
26	【経済】 健康・福祉・医療分野の産業が発展している	-0.23
27	【文化】 文化芸術やスポーツが観光資源として活かされている	-0.25
28	【子ども・若者】 子どもの教育環境が整っている	-0.25
29	【安全・安心】 市民の健康づくりのための活動が活発に行われている	-0.25
30	【安全・安心】 人が集まる施設や住宅のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化(年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、多くの人が利用できる)が進んでいる	-0.26
31	【経済】 コンテンツ産業(アニメ、漫画、映画、ゲーム、音楽などの創作物を作る産業)が発展している	-0.29
32	【都市空間】 老朽化が進む道路・公園・上下水道などの都市基盤、区役所・学校・体育館などの公共施設の維持・保全が進んでいる	-0.30
33	【経済】 ICT 産業(インターネット等情報通信関連の産業)が発展している	-0.34
34	【安全・安心】 支援を要する高齢者や障がいのある方が安心して生活できるサービス・住まいが提供されている	-0.35
35	【安全・安心】 安全な冬道が確保され、雪と共存した暮らしが実現している	-0.39
36	【安全・安心】 災害発生時に避難できる場所や必要となる物品・物資が整備・確保されている	-0.42
37	【環境】 CO2 削減のため、太陽光などの再生可能エネルギーやエコカーの普及、住宅やビルの省エネルギー化の促進などが積極的に行われている	-0.43
38	【安全・安心】 除排雪に関するルール・マナーが共有され守られている	-0.43
39	【経済】 アジアを始めとした海外を対象にしたビジネスが活性化している	-0.44
40	【安全・安心】 防犯のための取組・環境・体制が充実している	-0.44
41	【環境】 市民や企業などが環境問題に関心を持ち、主体的に環境保全活動に取り組んでいる	-0.45
42	【安全・安心】 交通事故を防ぐための取組・環境が整っている	-0.46
43	【子ども・若者】 安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている	-0.46
44	【地域】 男性も女性も社会の対等な構成員として、自らの意思によってあらゆる分野の活動に参画する機会が確保されている	-0.47

順位	取組	加重平均値
45	【安全・安心】耐震化や水害対策等、災害に対応できる建物・都市基盤の整備がなされている	-0.47
46	【地域】ボランティア・市民活動に参加しやすい環境が整っており、活動が活発に行われている	-0.54
47	【経済】環境配慮や省エネルギーの産業が発展している	-0.54
48	【経済】産学官連携などにより産業に多くのイノベーション(新しい方法や仕組みを導入し新しい価値を生み出すこと)が起きている	-0.56
49	【地域】地域住民が町内会・自治会に参加し、まちづくり活動が活発に行われている	-0.58
50	【地域】様々な国籍や民族の人々が、国や文化の違いにかかわらずお互いに認め合う「多文化共生」の意識が醸成されている	-0.62
51	【経済】人や企業間での国際交流が活発に行われている	-0.64
52	【地域】町内会や市民活動団体、行政や企業等、様々な団体により地域の課題解決に向けた活動が行われている	-0.64
53	【経済】ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)のとれた暮らしを送っている	-0.66
54	【子ども・若者】若者の自立・活躍に向けた教育・相談・支援体制が整っている	-0.69
55	【安全・安心】災害発生時に市民が主体的に行動する・地域等で助け合う意識が醸成されている	-0.69
56	【子ども・若者】配慮や支援を要する子どもへの、相談・支援体制が整っている	-0.70
57	【経済】雇用の場が安定的に確保されている	-0.70
58	【地域】住民同士の助け合い・支え合いが活発である	-0.71
59	【経済】起業・創業しやすい環境が整っている	-0.72
60	【子ども・若者】働きながら子育てができる環境が整っている	-0.75
61	【経済】札幌の企業の大半を構成している中小企業の経営が安定し、活発な経済活動が行われている	-0.77
62	【経済】誰もが自分の能力を生かして働くことができている	-0.89
63	【安全・安心】災害発生時に障がいのある方や、子ども、外国人観光客等が円滑に避難できる配慮がなされている	-0.90
64	【経済】商店・商店街が活性化し、地域に賑わいを生み出している	-0.92
65	【子ども・若者】虐待やいじめ、不登校などに適切に対応する体制が整っている	-0.92
66	【地域】地域において、子どもから高齢者までの多世代間の交流が活発である	-1.00

## ⑤今後の重要度

第1次戦略ビジョンに掲げる24のまちづくりの基本目標に関する取組について、「今後の重要度」がどのくらいと感ずるか、「高い」・「やや高い」・「普通」・「やや低い」・「低い」・「わからない」の中から回答を求めました。下の表は、各回答を点数化し加重平均値を算出したものです。

※配点…「高い」2点、「やや高い」1点、「普通」0点、「やや低い」-1点、「低い」-2点  
「わからない」は除外

順位	取組	加重平均値
1	【子ども・若者】働きながら子育てができる環境が整っている	1.22
2	【経済】北海道の食の魅力を生かした食産業が発展している	1.22
3	【子ども・若者】安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている	1.22
4	【安全・安心】災害発生時に避難できる場所や必要となる物品・物資が整備・確保されている	1.18
5	【子ども・若者】虐待やいじめ、不登校などに適切に対応する体制が整っている	1.18
6	【安全・安心】身近な医療体制や、救急時の医療体制が整っている	1.17
7	【安全・安心】耐震化や水害対策等、災害に対応できる建物・都市基盤の整備がなされている	1.16
8	【子ども・若者】子どもの教育環境が整っている	1.14
9	【子ども・若者】配慮や支援を要する子どもへの、相談・支援体制が整っている	1.14
10	【安全・安心】健康・医療・福祉に関する相談・支援体制が整っている	1.11
11	【経済】健康・福祉・医療分野の産業が発展している	1.10
12	【安全・安心】災害発生時に障がいのある方や、子ども、外国人観光客等が円滑に避難できる配慮がなされている	1.09
13	【安全・安心】安全な冬道が確保され、雪と共存した暮らしが実現している	1.07
14	【子ども・若者】若者の自立・活躍に向けた教育・相談・支援体制が整っている	1.04
15	【環境】市民や企業などが、積極的にごみの減量やリサイクル・資源の再利用を行っている	1.04
16	【安全・安心】災害発生時に市民が主体的に行動する・地域等で助け合う意識が醸成されている	1.04
17	【都市空間】老朽化が進む道路・公園・上下水道などの都市基盤、区役所・学校・体育館などの公共施設の維持・保全が進んでいる	1.02
18	【経済】ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)のとれた暮らしを送っている	1.02
19	【安全・安心】防犯のための取組・環境・体制が充実している	1.02
20	【安全・安心】支援を要する高齢者や障がいのある方が安心して生活できるサービス・住まいが提供されている	1.01

順位	取組	加重平均値
21	【経済】雇用の場が安定的に確保されている	0.99
22	【安全・安心】交通事故を防ぐための取組・環境が整っている	0.99
23	【安全・安心】人が集まる施設や住宅のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化(年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、多くの人が利用できる)が進んでいる	0.97
24	【環境】森林、農地、公園などのみどりの保全や、うるおいを与える河川などの水環境の保全がなされている	0.97
25	【安全・安心】公害の少ないまちが実現している	0.96
26	【安全・安心】食の安全に留意し、誰もが健やかで豊かな食生活を送っている	0.96
27	【経済】ICT産業(インターネット等情報通信関連の産業)が発展している	0.95
28	【環境】CO2削減のため、太陽光などの再生可能エネルギーやエコカーの普及、住宅やビルの省エネルギー化の促進などが積極的に行われている	0.95
29	【都市空間】地下鉄や路面電車沿線では、買い物・通院などの生活利便性の高い暮らしの場が形成されている	0.95
30	【経済】環境配慮や省エネルギーの産業が発展している	0.94
31	【安全・安心】除排雪に関するルール・マナーが共有され守られている	0.92
32	【経済】誰もが自分の能力を生かして働くことができている	0.92
33	【環境】自然環境を守り育むことなどにより、生物多様性(生きもののつながりのこと。生きもの全て直接、間接的に支えあって生きていること。)が保全されている	0.91
34	【都市空間】公共施設については、白石区役所のように、区民センターやえほん図書館等その他の施設を複合化するなど、効果的かつ効率的な再配置が進められている	0.91
35	【都市空間】公共交通の利便性が高まっており、積極的に公共交通を利用している	0.90
36	【都市空間】うるおいや安らぎを与えるみどりと、憩いや交流の場として活用される公園などがあり、良好な都市景観が形成されている	0.90
37	【経済】札幌の企業の大半を構成している中小企業の経営が安定し、活発な経済活動が行われている	0.89
38	【環境】市民や企業などが環境問題に関心を持ち、主体的に環境保全活動に取り組んでいる	0.89
39	【経済】国内外から多くの観光客が訪れて、経済が活性化している	0.88
40	【都市空間】地下鉄の始発駅などのエリアでは、にぎわいと生活利便性を高める施設が多くあり、その地域の中心となっている	0.86
41	【文化】魅力ある札幌の文化やライフスタイルが国内外に発信されている	0.78
42	【安全・安心】市民の健康づくりのための活動が活発に行われている	0.77

順位	取組	加重平均値
43	【都市空間】都心には経済・文化・交流など多様な活動を支える場があり、人を中心とした魅力ある空間が形成されている	0.77
44	【経済】産学官連携などにより産業に多くのイノベーション(新しい方法や仕組みを導入し新しい価値を生み出すこと)が起きている	0.76
45	【文化】雪やウィンタースポーツを楽しむ環境が整っている	0.76
46	【都市空間】郊外部の住宅地では、ゆとりのある良好な環境を生かした暮らしの場が形成されている	0.75
47	【文化】スポーツや運動を気軽に楽しめる環境が整っている	0.75
48	【都市空間】道内市町村や国内・海外との交流を支える交通ネットワークが整備されている	0.74
49	【都市空間】都心には公園や街路樹のみならず、建物内においてもみどり豊かな空間が形成されている	0.74
50	【文化】文化芸術を気軽に楽しめる環境が整っている	0.72
51	【文化】生涯学習(興味関心や課題に応じて自発的に行う、生涯を通じた学習活動)の環境が整っている	0.70
52	【経済】商店・商店街が活性化し、地域に賑わいを生み出している	0.69
53	【経済】起業・創業しやすい環境が整っている	0.67
54	【地域】男性も女性も社会の対等な構成員として、自らの意思によってあらゆる分野の活動に参画する機会が確保されている	0.66
55	【経済】アジアを始めとした海外を対象にしたビジネスが活性化している	0.64
56	【文化】魅力的な文化芸術イベントが活発に開催されている	0.64
57	【文化】文化芸術やスポーツが観光資源として活かされている	0.62
58	【経済】人や企業間での国際交流が活発に行われている	0.59
59	【文化】魅力的なスポーツ関連イベントが活発に開催されている	0.58
60	【地域】様々な国籍や民族の人々が、国や文化の違いにかかわらずお互いに認め合う「多文化共生」の意識が醸成されている	0.57
61	【経済】コンテンツ産業(アニメ、漫画、映画、ゲーム、音楽などの創作物を作る産業)が発展している	0.54
62	【地域】住民同士の助け合い・支え合いが活発である	0.52
63	【地域】ボランティア・市民活動に参加しやすい環境が整っており、活動が活発に行われている	0.40
64	【地域】町内会や市民活動団体、行政や企業等、様々な団体により地域の課題解決に向けた活動が行われている	0.39
65	【地域】地域において、子どもから高齢者までの多世代間の交流が活発である	0.37
66	【地域】地域住民が町内会・自治会に参加し、まちづくり活動が活発に行われている	0.23

## (2) R4年度市民アンケート

市民1万人を対象に、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの認知度」と、「まちづくりの基本目標の実現度」、「まちづくりの重要概念」に関してアンケート調査を実施しました。

### ○調査概要

調査期間	令和4年12月23日（金）～令和5年1月23日（月）
調査対象者	16～85歳の札幌市民の中から各区別・年代別・性別ごとに無作為抽出した計1万人
調査方法	調査対象者にアンケートを送付し、郵送・WEBフォームにて回答を求めた。
回答数	3,292（回答率32.9%）

### ○調査結果

#### ①回答者の属性

##### (1)性別

男性	43.4%
女性	50.2%
その他	6.0%
無回答	0.5%

##### (2)年齢

16～19歳	9.3%	55～59歳	8.4%
20～24歳	6.0%	60～64歳	5.1%
25～29歳	7.2%	65～99歳	7.1%
30～34歳	5.9%	70～74歳	8.7%
35～39歳	8.4%	75～79歳	5.2%
40～44歳	6.2%	80～84歳	6.0%
45～49歳	8.0%	85歳以上	0.8%
50～54歳	7.1%	無回答	0.6%

##### (3)居住地

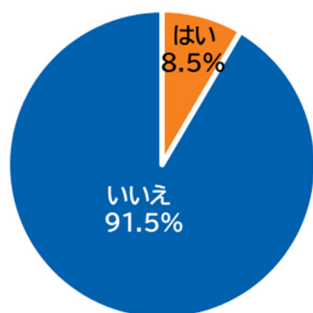
中央区	10.7%	清田区	10.5%
北区	9.5%	南区	10.7%
東区	9.7%	西区	10.5%
白石区	8.4%	手稲区	9.4%
厚別区	10.3%	その他	0.2%
豊平区	9.4%	無回答	0.8%

※ 表記の割合（%）は選択肢ごとに小数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

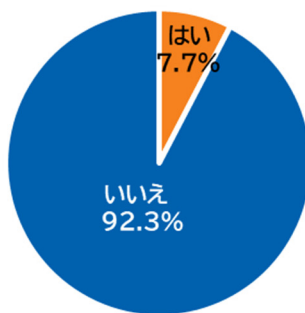
#### ②第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの認知度

「第2次戦略ビジョン」と「目指すべき都市像」、「まちづくりの重要概念」の認知度について、回答を求めました。

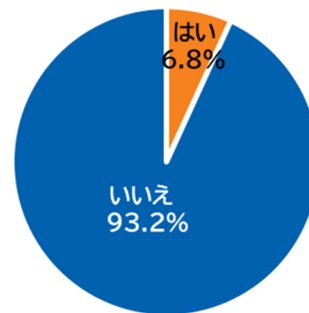
(1)第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン  
をご存じでしたか



(2)目指すべき都市像  
をご存じでしたか



(3)まちづくりの重要概念  
をご存じでしたか



### ③まちづくりの基本目標の実現度

第2次戦略ビジョンで掲げる20の「まちづくりの基本目標」について、それぞれが「実現していると思うか」について回答を求め、「そう思う」5点、「まあそう思う」4点、「どちらとも言えない（普通）」3点、「あまりそう思わない」2点、「全くそう思わない」1点として評価点を算出しました。

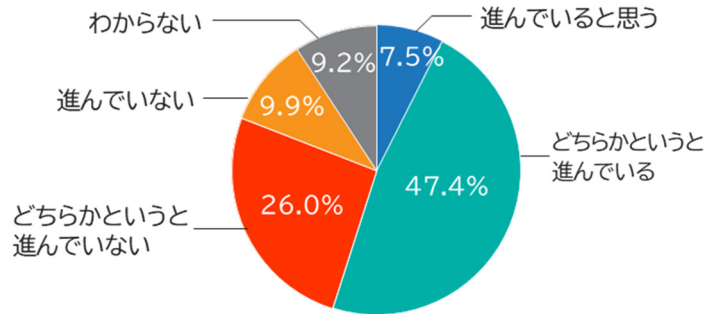
分野	基本目標	評価点 (5点満点)
子ども・若者	1 安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち	2.95
	2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち	2.66
	3 一人一人の良さや可能性を大切に教育を通して、子どもが健やかに育つまち	2.96
生活・暮らし	4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち	3.12
	5 生活しやすく住みよいまち	3.34
地域	6 互いに認め合い、支え合うまち	2.99
	7 誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むまち	2.87
安全・安心	8 誰もが災害に備え、迅速に回復し、復興できるまち	2.94
	9 日常の安全が保たれたまち	3.34
経済	10 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち	3.29
	11 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち	2.89
	12 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち	2.84
スポーツ・文化	13 世界屈指のウインタースポーツシティ	3.63
	14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち	3.57
	15 文化芸術が心の豊かさや創造性を育み、世界とつながるまち	3.36
環境	16 世界に冠たる環境都市	2.89
	17 身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち	3.72
都市空間	18 コンパクトで人にやさしい快適なまち	3.43
	19 世界を引きつける魅力と活力あふれるまち	3.32
	20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限活用するまち	2.98

#### ④まちづくりの重要概念

##### (1) ユニバーサル（共生）

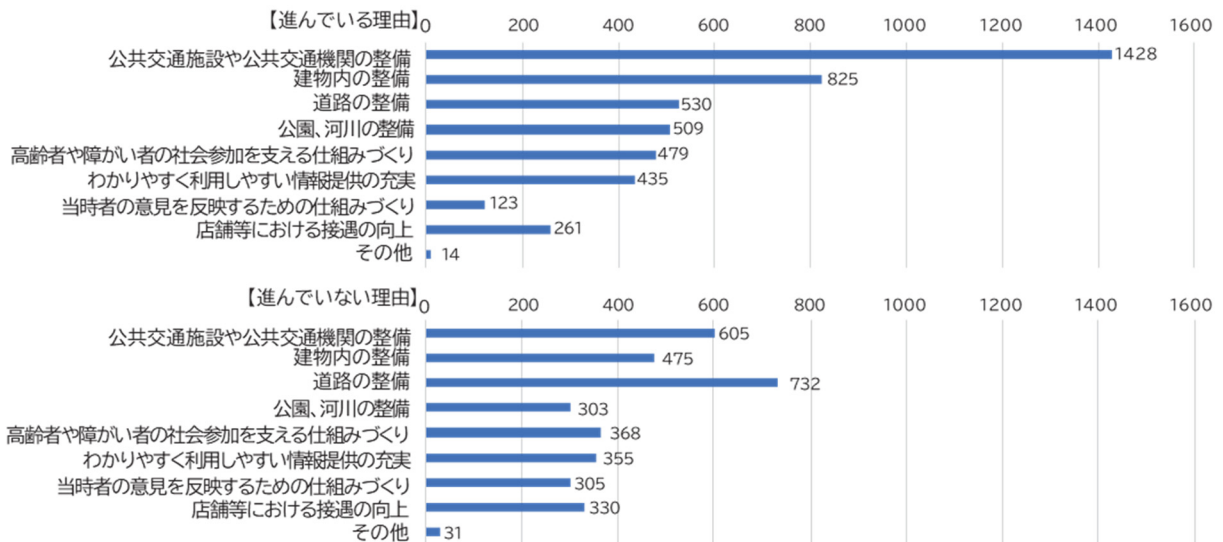
###### ア まちのバリアフリー化について

現在の札幌市における建物、道路、駅、電車等の施設や設備のバリアフリー化の進捗について、「進んでいる」・「どちらかというに進んでいる」・「どちらかというに進んでいない」・「進んでいない」・「わからない」の中から回答を求めました。



###### イ まちのバリアフリー化が進んでいる（または進んでいない）理由について

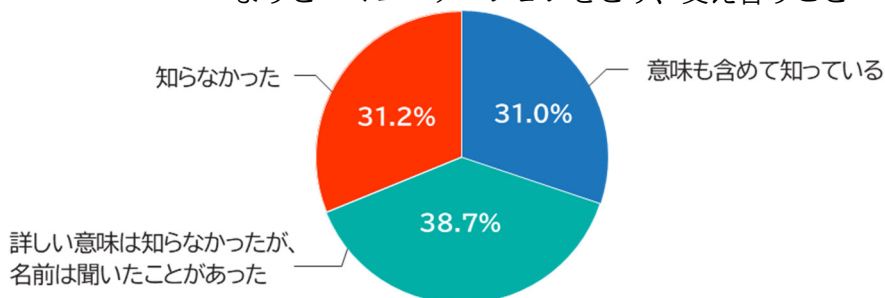
上記アに関連して、札幌市のバリアフリー化が進んでいる（または進んでいない）理由について、以下の選択肢の中から回答を求めました。



###### ウ 心のバリアフリーについて

「心のバリアフリー（※）」の認知度に関して、「意味も含めて知っている」・「詳しい意味は知らなかったが、名前は聞いたことがあった」・「知らなかった」の中から回答を求めました。

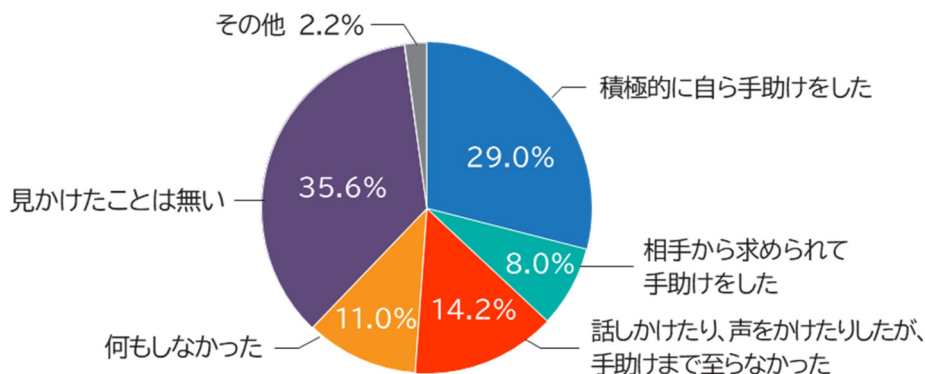
※心のバリアフリー：様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと





## エ 高齢者・障がいのある方・妊産婦・乳幼児を連れた方などへの対応について

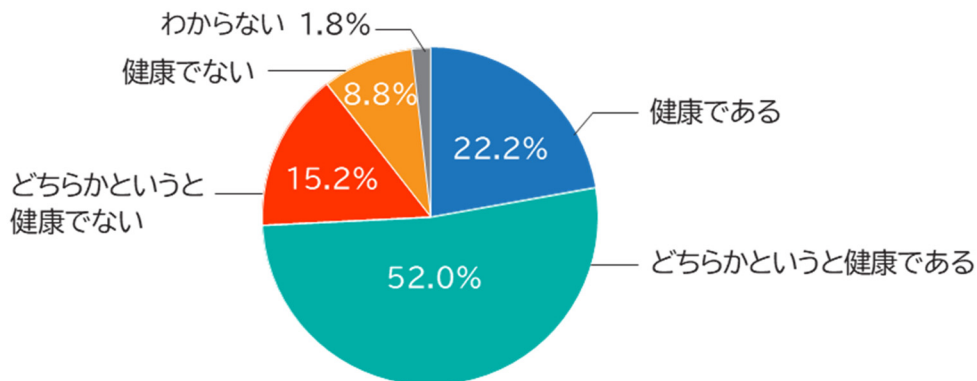
過去1年くらいの間、外出の際、高齢者・障がいのある方・妊産婦・乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたことがあるか、また、その際、どのように対応したのかについて、「積極的に自ら手助けをした」「相手から求められて手助けをした」「話しかけたり、声をかけたりしたが、手助けまで至らなかった」「何もしなかった」「見かけたことは無い」「その他」の中から回答を求めました。



## (2) ウェルネス（健康）

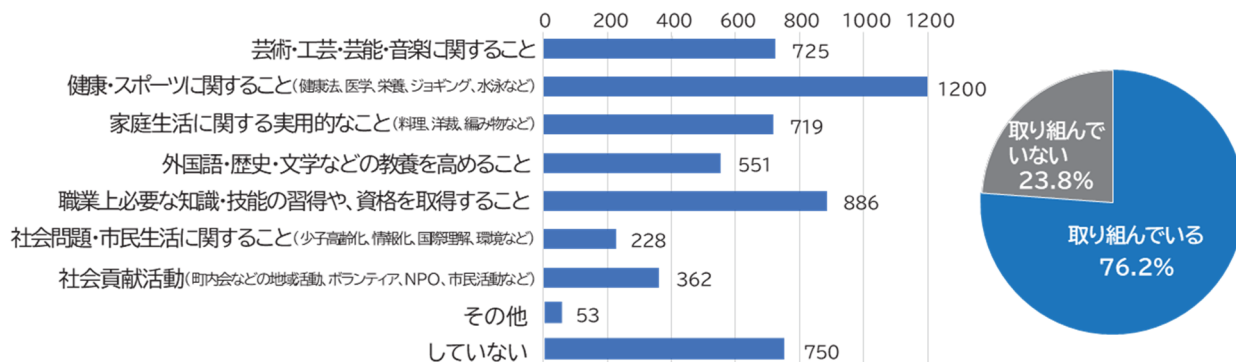
### ア 自分自身の健康について

現在、自分自身の健康についてどのように感じるか、「健康である」・「どちらかという健康である」・「どちらかという健康でない」・「健康でない」・「わからない」の中から回答を求めました。



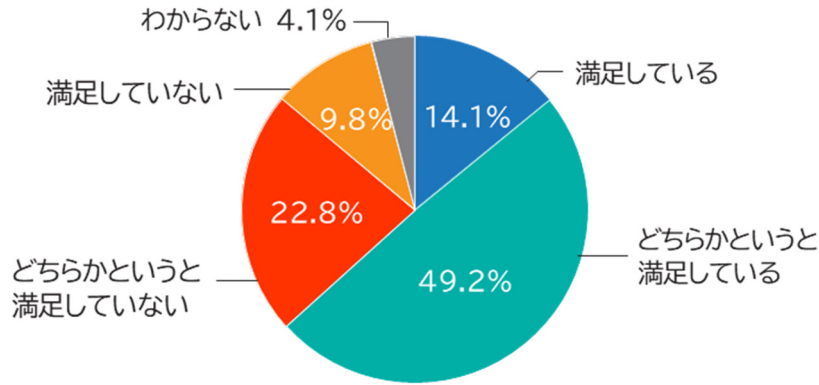
### イ 生涯学習について

現在、自分自身が生涯学習として取り組んでいるものについて、以下の選択肢の中から回答を求めました。



ウ 生涯学習の満足度について

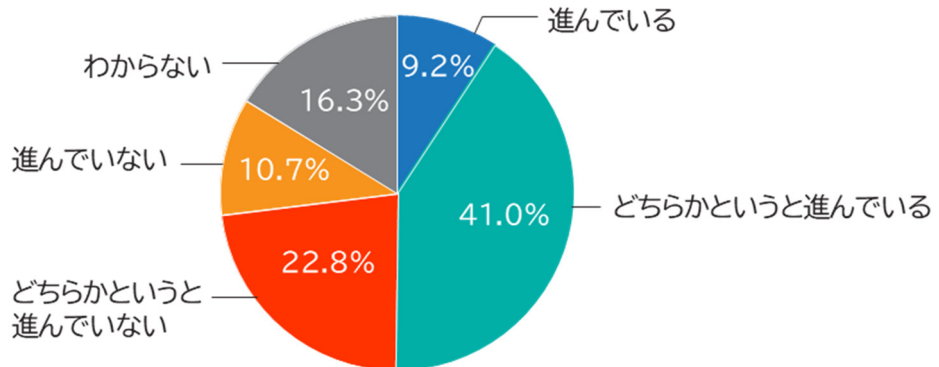
現在、上記イに関連して、現在の学習や活動の環境の満足度について、「満足している」・「どちらかという満足している」・「どちらかという満足していない」・「満足していない」・「わからない」の中から回答を求めました。



(3) スマート（快適・先端）

ア まちのデジタル化について

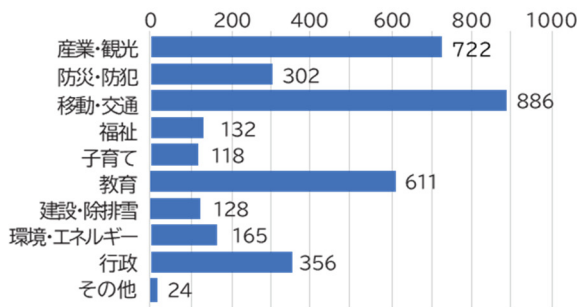
現在の札幌市のデジタル化の進捗について、「進んでいる」・「どちらかというと進んでいる」・「どちらかというと進んでいない」・「進んでいない」・「わからない」の中から回答を求めました。



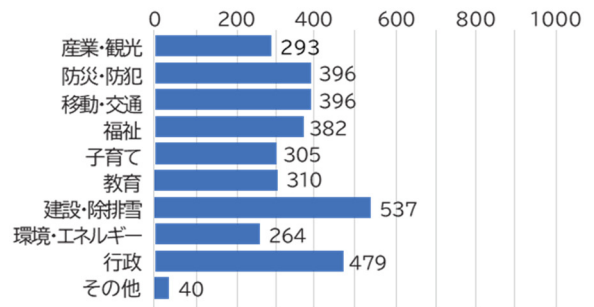
イ まちのデジタル化が進んでいる（または進んでいない）理由について

上記アに関連して、札幌市のデジタル化が進んでいる（または進んでいない）理由について、以下の選択肢の中から回答を求めました。

【進んでいる理由】



【進んでいない理由】



## 4 市民ワークショップ

### (1) 「話そう！さっぽろの未来」

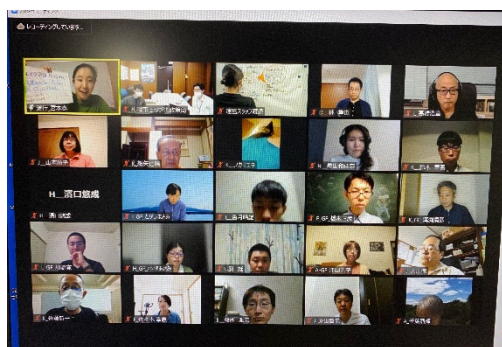
札幌市が目指すべきまちづくりの方向性について、市民意見をいただくことを目的にワークショップ「話そう！さっぽろの未来」を実施しました。参加者は公募した10代～70代の札幌市民とし、オンラインで開催（全3回）しました。

ワークショップでは参加者を3～4名ずつのグループに分け、8つのまちづくりの分野（子ども・若者、生活・暮らし、地域、安全・安心、経済、環境、スポーツ・文化、都市空間）ごとについて、それぞれ「10年後、どのように変化していたらよいか」「その変化を起こすためには何が必要か」というテーマの下、意見交換を行いました。

最終回では、これまで出た意見を総合的に振り返り、参加者一人一人が10年後の札幌市の将来像を発表しました。

#### ○日時・内容

回数	日時	参加者数	テーマ
第1回	令和3年9月1日（水） 19：00～21：00	43名	子ども・若者分野、環境分野 ・10年後どのように変化していたらよいか ・その変化を起こすためには何が必要か
第2回	令和3年9月8日（水） 19：00～21：00	39名	生活・暮らし分野、地域分野、安全・安心分野、 経済分野、スポーツ・文化分野、都市空間分野 ・10年後どのように変化していたらよいか ・その変化を起こすためには何が必要か
第3回	令和3年9月27日（月） 19：00～21：00	39名	全分野の振り返り ・10年後の札幌市の姿について



参加者は全員オンラインで参加。チャットなどの機能も活用し、目と耳で意見を共有。



オンライン環境の用意が難しい方向けに、パソコンやカメラ、マイクを用意した参加会場も用意（各回3～4名が利用）

## ○まちづくりの分野ごとの主な意見

①子ども・若者分野	
	地域ぐるみで子どもを育てることが、地域の大人にとっても、より豊かに暮らすために必要なのではないか。
	子どもが外で遊んだり学んだりできるよう、公園や施設が増えるとよい。 大学生などとも交流できる機会が増えるような社会。
	居場所があること。若者は放課後の居場所がない。 学童の居場所も少ないと保護者から聞く。
	子連れ出勤が気軽にできる環境になれば、札幌市で働きたいという人が増えると思う。
	子どものことだけでなく、20代や30代の親世代が暮らしやすければ、子どもも暮らしやすくなると思う。
	夫婦共に働ける、保育施設が充実したまちに。
	学生に補助やサポートがあるといいと思う。
	地域に開かれた、地域から学べる学校に。教室から地域に飛び出して学べるように。
	若者の就労支援。札幌市の活性化のうえで大事だと感じる。
	民間企業と学校が連携して、体験型の授業を。そこに市のバックアップがほしい。
	若者が選挙に参加し、自分の意見を伝えていくことが大切。

②生活・暮らし分野	
	お年寄りの健康づくりや介護予防のための歩きやすいまちづくり。 歩くためのスペースを外や商業施設内に作る。
	生涯学習として、国際視点で利用できる施設や、Wi-Fi環境が整っているといい。 図書館や交流空間があるものが物足りない。
	オンライン診療や自宅でかかりつけ医と健康や体調の相談ができる体制ができていたらいい。
	大きな病院で気軽にセカンドオピニオンを受けられる体制づくり。
	障がい者や高齢者が冬生活しにくい。小道にロードヒーティングや点字ブロックがない。
	障がいや、様々な個性や特性について、学校で学ぶことができれば、他人との付き合い方も分かる。
	障がいを持つ方の苦労は当事者や身近な人間にしか分からない。 差別を生まないために理解を深め、協力し暮らしやすい場所にしていく必要がある。
	大切な情報がどんな方にも届く札幌市であってほしい。
	大雪に備えた対策が必要。

③地域分野
挨拶ができるまちづくり。 挨拶ができる地域は犯罪が少なくなると聞くためそういった地域にしていきたい。
様々な世代と交流できる機会が増えるといい。
オンラインによる国際交流で様々な言語や文化を学ぶことが大事。 多様性の理解が更に求められている。
回覧板の電子化など、ICTを使用することが今後の新しい町内会活動や地域活動に必須となるのでは。
若手の町内会リーダーの育成を行政が行ってほしい。
町内会に入っていない方が多いのではないか。 若い人が関わりやすい活動に着手していく必要がある。
町内会に関心のある学生を集める。 行政が広く入り口をつくり世代間で意見交換をする場をつくる。
町内会も商店街の活動もSNSやインターネットの利用により若者が関心を持つかも。
孤独な高齢者に対する連携。 一人暮らしの方にも連絡を取り合い、地域が共有できる仕組みづくり。

④安全・安心分野
地震などの自然災害時に近隣で声を掛け合う、助け合える関係が構築されているまちに。
ライフラインがすぐに復旧できるまちに。
停電や火事などの災害の体験学習ができれば緊急時の備えの意識につながる。
防災訓練を通して近所の人とのコミュニケーションがとれるまちに。
危険な場所の情報共有、犯罪や詐欺の手口など、札幌市が情報提供を積極的に。
ハザードマップの活用。マップの存在は知っているが、自分が住む地域がどういうところなのか、より明確にお知らせされるシステムがあればいい。
大学や企業で冬の生活の不便を解決する工夫を。 冬道の研究開発を助成する制度があるといい。
雪や災害で外に出るのが大変な場合は外に出なくてもリモートワークや家の中で買い物できる仕組みが充実したらいい。
普段からできる見守りを。 普段から挨拶したり見守りをしたりすることで事故や事件を未然に防ぐことができる。
交通安全意識は一人一人の問題。 子どもの頃から勉強し、みんなでルールを守る呼びかけが必要。

**⑤経済分野**

コロナ禍以降の新しい価値観で食と観光を伸ばすのがいい。  
従来の観光ではなく、新しい観光のスタイルを模索。

観光だけに頼らず、研究や実験といった先進的な取組をしているまちというイメージが付くといい。そうすることで、学生や研究者が集まり、企業や雇用も増え、子どもや税収も増える。

札幌市の強みは食と観光、そのほかにあまりないので、道外から将来性のある企業を呼び込みたい。

これからはIT産業の時代になると思う。

ものづくりを伴わないIT系は環境さえ整えることができれば立地上で不利にならない。

道外にでなくても、オンラインの仕事が充実すればいい。

札幌市に東京の会社を誘致するためには、仙台市や福岡市などの他の自治体にとられない、選ばれるまちにならなければならない。

新幹線の活用方法の検討。貨物・観光など、札幌市以外の都市の活性化へもつながれば。

小さな子どもに沢山仕事があることを知らせることができたら、将来の選択肢が増える。

働きたい学生と企業を、札幌市が繋いでくれるシステムがあるといい。

若い人だけでなく40代、50代でも新しい仕事にチャレンジする機会の創出。

**⑥スポーツ・文化分野**

手軽にスキーを楽しめる環境に。スキーをやるにはお金がかかるので、まずはハードルを下げてお試しでできるようになれば。

大通公園などでウィンタースポーツを紹介・体験するイベントがあればいいと思う。  
カーリングやスケートなど、雪まつりではないものをやってほしい。

札幌市で、文化やスポーツのコーチの方に、教え方の研修会や講習会を開いてほしい。  
教育現場の体育という観点でスポーツの大切さを導入する施策が必要。

サイクリングロードの整備で健康と観光に結びつける。

子どもたちの作品（絵画など）が、市内の施設で紹介されることで、子どもたちの心に残り、美術芸術に触れるきっかけになるといい。

芸術の森のような大きなものでなく、少しだけ文化に触れられる機会が商業施設にできるといい。

今はお店や文化がバラバラに点在してしまっているので、エリアごとに「かわいい」、「かっこいい」などの文化が生まれるとよい。東京なら、原宿は「かわいい」、浅草は「伝統的」など、エリアごとにイメージがある。まとまって発展できるようなお店や場づくりが広がれば、目的により行く場所が変わる。

習いたい人と教えたい人のマッチングが大切。

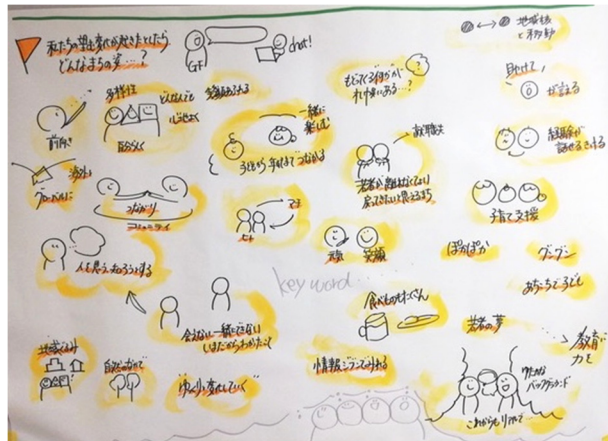
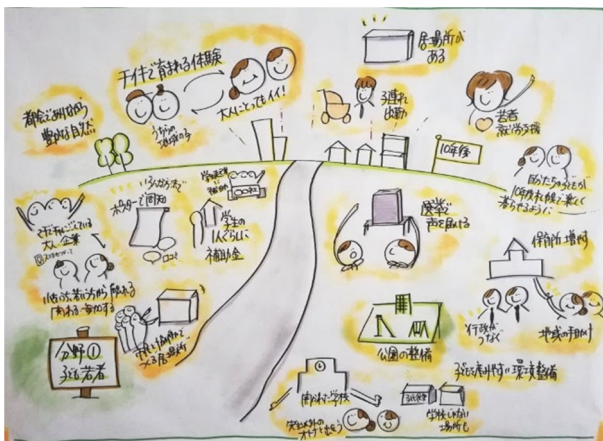
何かをやりたい人同士が出会えて行動できる場所があればいい。

⑦環境分野
再生可能エネルギーを使っていくことが大切。
低炭素社会とグリーンエネルギーの推進。身近な生物との共生。
過剰包装など、なくてもいいものは減らしていく。 ゴミ問題について市のPRが不足しているので、呼びかけてほしい。
札幌は建物が多いので、使っていないものを整備して有効活用することがいいと思う。
環境への方針や問題点を市民が知ることから始めるのが重要。 行政が企業へ働きかけることで、企業が動き、市民の動きや考えも変わるのではないか。
姉妹都市のポートランドは環境に関して先進的な取組を沢山行っている。 札幌市も見習うべき。
市内各区に農業体験や自然体験できる場所を置き、教育に組み込む。
住宅と動物の生息地を分けることが共生のテーマに必要と考える。
サイクリングロードの充実。サイクリングはエコにつながる大事なツール。
都市だけど自然環境が豊か。札幌市にも自然環境を売りにした名所があるといい。

⑧都市空間分野
都会でありながら豊かな自然、公園の整備。
駅前の車を排除し、人の散歩道やサイクリングロードを優先させるといいと思う。
大通公園や狸小路で、イベントやお店を出せるような環境整備。
自転車で過ごしやすいまちに。 冬場のために地下空間の整備。地下に自転車道があってもよい。
自然があり子どもたちが安全に遊べる公園がまちなかにあるといい。
中心部に集中せずに全区にうまく回る都市空間、どの地域でも移動の便がいいまち。
隙間とみどりが多いまち。雪とみどりが両立するまちに。
真駒内駅前にみどりが多く、人が集まれる空間が作れたらいい。
札幌市と北海道の共同で、まちなか中心部の緑化や交通網の整備を。バスの充実、公共交通機関の料金見直し、マイカー規制をすることで車線を減らし遊歩道を作るなど。
バリアフリーの整備。点字ブロックや障がい者向けの宿泊施設など。 障がい者も健常者も両者が利用しやすい施設をつくれば快適に過ごせる。
都市の至る所に、コワーキングスペースや学生が自習できるスペースを増やしていけるとよい。

## 〇札幌市が目指す都市像についての意見(抜粋)

全ての市民が自分らしく生き生きと暮らせるまち
子どもからお年寄りまでお互いに関わり合えるあたたかいまち
一人一人がまちに対して関心を持ち、誰一人として孤立しないまち
広い土地や自然を生かした魅力的なまち
みどり豊かな自然に恵まれた環境をつくるまち
世界中から人が集まるまち
笑顔が絶えない、人とのつながりを感じるまち
人の手と手につながるまちづくり札幌
子育てと仕事を両立できるまち
若者が定住したいまち



### (2) 「Let's THINK! SAPPORO」

これからの札幌市のまちづくりについて考えるワークショップを開催しました。また、ワークショップの結果を広く市民に共有するとともに、より幅広い市民の意見を収集することを目的としたオープンハウスを開催しました。

ワークショップでは、参加者を6～7名ずつのグループに分け、まちづくりの8分野（子ども・若者、生活・暮らし、地域、安全・安心、経済、スポーツ・文化、環境、都市空間）について、第2次戦略ビジョンで掲げる3つの重要概念（ユニバーサル、ウェルネス、スマート）を踏まえた上で、10年後の目指す未来の姿を考え、その後、それを実現するために市民・企業・行政ができることについて意見交換を行いました。

オープンハウスでは、第2次戦略ビジョンについての説明パネル（都市像や3つの重要概念、各分野の目指す姿など）や、会場に訪れた人がまちづくりに関する意見を貼るパネル等を展示しました。



## ○日時・内容

回数	日時	参加者数	テーマ
第1回	【実会場】 令和4年6月25日(土)13:30～16:00	46名	各グループのテーマから、10年後の札幌市の姿について考える 10年後の札幌市の姿を実現するためのアイデアについて、「市民や企業が取り組めること」、「行政がサポートすべきこと」を考える
第2回	【オンライン】 令和4年6月25日(土)18:00～20:30	22名	
第3回	【オンライン】 令和4年6月28日(火)18:00～20:30	13名	
第4回	【実会場】 令和4年6月29日(水)18:00～20:30	48名	
オープンハウス	令和4年7月2日(土)・3日(日) 10:00～18:00	235件 (意見数)	○ポスター掲示 ・第2次戦略ビジョンとは？ ・第2次戦略ビジョンが目指す姿と3つの重要概念 ○ワークショップの様子などを編集した動画の上映 ○ご意見カードによる意見聴取



## 〇まちづくりの分野ごとの主な意見

①子ども・若者分野	
目指す未来	育児や医療、教育にかかる費用などを無償化、あるいは補助がある。
行政ができること	育児や医療、教育などへの支援、補助を充実させる。
目指す未来	仕事と子育てを両立しやすいシステム（育休取得が楽になるなど）が整っている。
市民・企業ができること	企業で子どもの面倒を見るチームを結成したり、託児所や子育て中の社員をフォローしやすい環境をつくる。
目指す未来	子どもの体調が悪い時や保護者が忙しい時に預けられる施設がある。
市民・企業ができること	地域が管理する学童保育の施設を作り、高齢者が子育てに活躍する。
目指す未来	いじめ問題撲滅に力を入れ、大人が子どもをいじめから守ってあげられる。
行政ができること	学校と家庭をつなぐサポートがある。
目指す未来	国際交流に力を入れることで、若者が様々なチャンスをつかめる。
行政ができること	国際交流が手軽にできるオンラインシステムなどを開発する。

②生活・暮らし分野	
目指す未来	医療・子育てなどを24時間相談できる仕組みがある。
行政ができること	オンラインで診療できる仕組みを整える。
目指す未来	高齢者や障がい者など、誰にとっても安心安全なサポートがある。
市民・企業ができること	高齢者向け施設でのケアの見直しなど、その人に合ったものや、その人のできることを生かす。
行政ができること	ハンディキャップがある方へのサポートにテクノロジーを活用する。
目指す未来	NoMapsや札幌国際芸術祭などのイベントを、札幌市民誰もが知っているまち。
行政ができること	SNSなど市民の目に入りやすい広告を出す。
目指す未来	大人（高齢者まで）も学び直せたり、講師となって教える活躍の場がある。
市民・企業ができること	夜間でも大人や若者が学べる場をつくる。
行政ができること	ボランティアやリタイアした方が活躍できる場を提供する。
目指す未来	冬でも外出の機会がたくさんあり、健康や体力アップができていくまち。
市民・企業ができること	冬にも体を動かす楽しい運動のイベントを増やす。

③地域分野	
目指す未来	地域全体のほか、外国人とも支え合い、気軽に交流できるような環境（場所、制度など）がある。
市民・企業ができること	英語表記の案内板などを使いながら、観光客の案内を市民が行う。
目指す未来	子どもも大人も交流でき、運動を楽しめる公園などがある。
市民・企業ができること	子どもと大人が地域内で気軽に参加できるイベントを活性化させる。
目指す未来	高齢者と若い世代が会うきっかけとなる多世代が交流できる場がある。
市民・企業ができること	多世代が参加できて交流のきっかけとなるラジオ体操などを開催する。
行政ができること	若者が高齢者にSNSなどを教えるような機会を作る。
目指す未来	ヨガやストレッチ、ダンスなど、参加して楽しい行事があり、若い世代でも町内会活動に参加しやすい。
市民・企業ができること	一人暮らしや若者にも町内会に参加するきっかけをつくる。
行政ができること	若者が行きたくなるイベントを実施する。
目指す未来	筋トレコミュニティのような趣味でつながるコミュニティもあるので、公共施設がコミュニティの拠点となっている。
行政ができること	町内会館などもスマートフォンで予約して気軽に使えるようにする。

④安全・安心分野	
目指す未来	災害への備えがあり、災害に強い。
市民・企業ができること	E V車への転換をすすめ、災害時などには電力として活用する。
行政ができること	安全な避難ルートの確立や、復旧のイメージをあらかじめ市民と共有する。
目指す未来	避難所においても精神障がい者の方へのケア、見守りがある。
市民・企業ができること	障がい者の方、外国人の方も分かりやすい優しい言葉で書かれたガイドラインをつくる。（SNSや紙で配布）
目指す未来	朝・昼・夜関係なく誰でも安心して外を出歩けるような防犯がしっかりしている。
行政ができること	景観がよくなり安全にもつながるようなおしゃれな街灯を設置する。
目指す未来	災害時に助け合える関係性ができている。
市民・企業ができること	困っている方がいれば、積極的に声を掛けるような意識づけがある。
目指す未来	自転車等の逆走がなく交通マナーが守られている。
市民・企業ができること	自転車の交通マナーを周知する。
行政ができること	自転車の講習をより強化し、子どものときからルールや罰則の理解を深める。

⑤経済分野	
目指す未来	一次産業の担い手が増えている。
市民・企業ができること	自分の食べるものに興味を持ち、どこの生産品なのかということを教育で伝える。
行政ができること	農業の人手不足情報をまとめて紹介をする。
目指す未来	障がい者の特性を生かした働き方が考えられている。
市民・企業ができること	職場への通勤が難しい方でもテレワークで働けるようにする等、労働環境を整備する。
行政ができること	障がい者の積極的な雇用に補助を行う。
目指す未来	空き家を再利用し、お店や子どもたちの支援に使えるようになっている。
行政ができること	空いている土地の積極的活用を広報する。
目指す未来	新しい遊ぶ場所・働き場所がある。
行政ができること	昔からの建物も利用しつつ、新しい活躍の場を増やす。
目指す未来	インバウンド（観光）需要のための多言語対応がされている。
市民・企業ができること	自動翻訳機を開発する。
行政ができること	外国語教育を充実させる。

⑥スポーツ・文化分野	
目指す未来	部活動や授業でウィンタースポーツに触れる機会が増えている。
市民・企業ができること	市民が気軽に使えるスケートリンクをつくる。
行政ができること	学校教育でウィンタースポーツの時間を増やす。
目指す未来	スポーツが苦手な人や高齢者でも、気軽にスポーツが体験できる。
市民・企業ができること	スキー、スノーボード、スケートに触れるためのイベントを行う。
目指す未来	マイナースポーツの普及（あまり体を動かさないのも含む）が進んでいて、誰でもスポーツを楽しむことができる。
市民・企業ができること	マイナースポーツへのボランティアの積極的参加をする。
行政ができること	マイナースポーツを体験できる施設を期間限定でつくり、いろんな人に気軽に知ってもらう。
目指す未来	明治の開拓期とアイヌ文化への理解を深める機会がある。
市民・企業ができること	札幌やその他地域の歴史に関心を持ち、学習をする。
行政ができること	札幌市がアイヌ文化の発信地となるためのプロモーションをする。

⑦環境分野	
目指す未来	企業だけでなく小学校などでも、SDGsなどの環境に対する理解が進んでいる。
行政ができること	義務教育での環境教育を進める。
目指す未来	コンパクトなサファリパークがまちなかにあるなど、動物を知る環境が増えている。
市民・企業ができること	札幌に生息する動物についてもっと深く理解したり研究したりする。
目指す未来	多様な動植物と共存している。
行政ができること	動物の生息に合わせた注意喚起や情報発信を進める。
目指す未来	市街地にも農園がたくさんある。
市民・企業ができること	市街地農園用に農薬が要らない野菜を作る。
行政ができること	市街地農園で活動する場合に税金を安くする。
目指す未来	ビルやマンションの壁、屋根等を活用した緑化ガーデニングが進んでおり、子どもの頃からみどりに触れ合っている。
市民・企業ができること	緑地の維持管理を行う。
目指す未来	自然環境の中でレジャー的な運動が促進されている。
市民・企業ができること	イベントの開催による体力づくり。

⑧都市空間分野	
目指す未来	歩行者にも、運転する人にも安全で移動しやすいまちになっている。
行政ができること	まちなかに動く歩道や、自転車専用レーンを設置する。
目指す未来	外国人や高齢者など様々な人が使いやすい地図案内がされるモニター（画像）が各所にある。
行政ができること	多言語表示やARを用いた地図案内の開発を進める。
目指す未来	歩行者天国があり、運動や交流が促進されている。
市民・企業ができること	歩行者天国の実現に向けた署名活動。
行政ができること	先進的な公共交通システムによって車両が入らない都心部の環境づくり。
目指す未来	路肩を活用したマルシェなど賑わいを提供する都市空間がある。
市民・企業ができること	多世代の方たちで交流ができる場をつくる。
行政ができること	場所の提供や情報発信を行う。
目指す未来	徒歩圏内で生活が完結できる。
行政ができること	都市空間の整備を進める。

### (3) 「Let's ACTION! SAPPORO」

10年後の札幌市のまちづくりについて、「自分ができること」について考えるワークショップを開催しました。併せて、第2次戦略ビジョンの説明や幅広い市民の意見を収集することを目的としたオープンハウスを開催しました。

ワークショップでは、参加者を6～7名ずつのグループに分け、第2次戦略ビジョンにおいて、分野横断的に取り組む施策（ユニバーサル、ウェルネス、スマート、人口減少緩和）をテーマに、それを実現するために市民・企業・行政ができることについて意見交換を行いました。

オープンハウスでは、第2次戦略ビジョンについての説明パネル（戦略ビジョンの構成、分野横断的に取り組む4つの施策など）や、会場に訪れた人がまちづくりに関する意見を貼るパネル等を展示しました。

#### 〇日時・内容

回数	日時	参加者数	テーマ
第1回	【実会場】 令和5年7月18日 (火)18:00～20:30	40名	戦略ビジョンに掲げられた、分野横断的に取り組む4つの施策(テーマ)ごとに、それらが実現した10年後の札幌市を考え、それを実現させるためのアイデアや参加者自身ができることについて考える
第2回	【実会場】 令和5年7月20日 (木)10:00～12:30	43名	
第3回	【実会場】 令和5年7月22日 (土)14:00～16:30	41名	
第4回	【オンライン】 令和5年7月29日 (土)18:00～20:30	13名	
オープンハウス	令和5年7月15日(土)・16日(日) 10:00～18:00	247件 (意見数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポスター掲示</li> <li>・第2次戦略ビジョンの構成</li> <li>・第2次戦略ビジョンで掲げる分野横断的に取り組む4つの施策</li> <li>○ワークショップの様子などを編集した動画の上映</li> <li>○ご意見カードによる意見聴取</li> </ul>
アフターワークショップ	令和5年7月22日(土)17:00～19:00	31名	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーブルごとに、ワークショップ内で検討した、「My ACTION(自身ができること)」をもとに自己紹介</li> <li>○会場内に「具体的にやってみたいこと」を掲示し、特に応援したいアイデアにシール投票を実施</li> </ul>

## ○分野横断的に取組む4つの施策(テーマ)ごとの主な意見

①ユニバーサル(共生)	
10年後の札幌	バリアフリーが進んでいるまち。
アイデア	まちなかの段差が少ないまちにする。 季節に関係なく移動が容易なまちにする。
アクション (自身ができること)	困っていそうな方に声をかける勇気を持つ。 子どもを連れて行きやすいお店やバリアフリーの進んだお店をSNSなどで発信する。
10年後の札幌	心のバリアフリーが進んでいるまち。
アイデア	お互いが助け合うことができているまちにする。 心のバリアフリーに関するガイドブックを作成する。
アクション (自身ができること)	手話でコミュニケーションをとれるようになり、聴覚に障がいを持つ方を支援する。
10年後の札幌	多様性のあるまち。
アイデア	パンフレット等、さまざまなものの多言語化が進んでいるまちにする。 性別に関わらず皆が使えるトイレが多く設置されているまちにする。
アクション (自身ができること)	英語を使って、困っている外国人の方を助ける。 多様性に関する啓発イベントなどに参加する。

②ウェルネス(健康)	
10年後の札幌	子どもから高齢者までみんなが暮らしやすいまち。
アイデア	現役世代が参加しやすい町内会づくりがなされているまちにする。 地域住民が、子育て、雪かき、お祭りなどを通して、世代間交流を図っているまちにする。
アクション (自身ができること)	若者と高齢者の壁をなくすために、地域のイベントに参加していく。
10年後の札幌	地域のスポーツに参加しやすいまち。
アイデア	周遊コースであるラウンドウォークを活用し、自然の豊かさと都市機能を知ることができるまちにする。
アクション (自身ができること)	健康増進のため、徒歩、ランニングや水泳をする。 近所の公園でやっているラジオ体操に毎日通う。
10年後の札幌	生きがい、やりがいを持って活躍できる市民が増えるまち。
アイデア	年齢に関わらず、学びたい人が学べる環境が整っているまちにする。 市民が日常的に人と交流することで、新しい発見を得られるまちにする。
アクション (自身ができること)	障がい者支援のことを学んだので、そこで得た知見を地域の方に還元する。

③スマート(快適・先端)	
10年後の札幌	誰もが安全に快適にデジタルを活用できるまち。
アイデア	行政等が主催するデジタル活用のための講習会が行われるまちにする。 無料Wi-Fiが市内どこにでもあり、利用しやすいまちにする。
アクション (自身ができること)	地域サロンでパソコン同好会を開催する。 親子でネットリテラシーについて話し合う。
10年後の札幌	しっかりとした除排雪が行われ、冬でも快適なまち。
アイデア	有償ボランティアの登録や、制度の活用が広まっているまちにする。 人手不足解消のために除雪車の自動運転のモデル都市のまちにする。
アクション (自身ができること)	地域間で除排雪の助け合いができるようにする。
10年後の札幌	ウィンタースポーツが盛んなまち。
アイデア	子どもにウィンタースポーツをさせる際に、サイズ変更による買い替えが負担軽減のため、道具の回収とリユースが進んだまちにする。
アクション (自身ができること)	札幌市民全体でウィンタースポーツを楽しむ意識を持つ。

④人口減少緩和	
10年後の札幌	子育てに対する地域や行政のサポートが手厚いまち。
アイデア	成人になるまでの教育費・医療費の補助が充実しているまちにする。 町内会で多世代の交流ができて、地域全体の子育ての拠点になっているまちにする。
アクション (自身ができること)	地域全体で子どもを育てる環境づくりを行う。
10年後の札幌	多様な働き方ができるまち。
アイデア	本社が道外であってもリモートワークで働けるまちにする。 リカレント教育として働きながら学べる環境があるまちにする。
アクション (自身ができること)	フリーランスで働いているので、札幌での新しい働き方のスタイルを周りに伝えたい。





## 5 子ども議会

札幌市内の子どもたちに本市のまちづくりについて考えてもらうことにより、市政に対する理解を促進し、関心を高めるため、「子ども議会」を実施しました。

### (1) 令和3年度の取組

子どもたちは、「子ども議員」として自らテーマを考え、「地球温暖化と気候変動について」・「公共の場が、障がいのある人や高齢者の方にとって、使いやすい場所にするためには」という2つのテーマについて話し合い、意見発表を行いました。

#### ○参加者

子ども議員17人（小学生15人・中学生2人）

サポーター3人（高校生）

#### ○日程・内容

回数	日程	内容
第1回	令和3年10月31日（日）	次のテーマについての意見交換を実施しました。
第2回	令和3年12月5日（日）	・地球温暖化と気候変動について
第3回	令和3年12月26日（日）	・公共の場が、障がいのある人や高齢者の方にとって、使いやすい場所にするためには
第4回	令和4年1月16日（日）	※ いずれもオンラインで開催
第5回	令和4年2月13日（日）	
発表	令和4年3月6日（日）	子ども議員の発表を動画にまとめ、まちづくりイベント「超まちフェス」内で発表しました。 ※ 札幌駅前通地下歩行空間（北2条広場）のデジタルサイネージにおいて、令和4年3月14日から同月21日まで配信を実施

#### ○主な意見

マイバックやマイボトルを使用することなど、札幌の未来を守るという意識を持って、誰もがいきま
すぐにできる、簡単なことから始めていきたい。
バリアフリーを実現するには、みんながその工夫を知り、周りに気を遣うことも必要。
この会議をして分かった対策などを周りの人に伝えたら良いのではないか。

### (2) 令和4年度の取組

子どもたちは、「子ども議員」として自ら設定した、「ヒグマ対策」「観光」「救急医療」「いじめ相談」「森林」という5つのテーマについて話し合い、意見発表を行いました。

#### ○参加者

子ども議員23人（小学生17人・中学生6人）

サポーター9人（高校生5人、大学生4人）

## ○日程・内容

回数	日程	内容
第1回	令和4年10月29日(土)	子ども議員は、テーマに関連する部局の市職員との勉強会を通して学び、話し合いを重ねることで、市や市民ができることについてグループの意見をまとめました。
第2回	令和4年11月19日(土)	
第3回	令和4年12月4日(日)	
第4回	令和4年12月18日(日)	
報告会	令和5年1月11日(水)	子ども議員が、5つのテーマについての意見を、市長に対して発表しました。

## ○主な意見

ヒグマと共存していくために、草刈りや電気柵の設置等の対策を実施するとともに、学校の授業の中でヒグマへの対応方法等を学ぶ機会をつくる。
幅広い年代の人たちが安全・安心な観光ができるよう、観光客向けホームページについて、子どもにも分かりやすい内容にすることや、観光地の混雑状況・気象情報の掲載等を改善する。
救急搬送時の救急隊と病院の連絡を円滑に行うために、音声入力機能付きの救急隊アプリをつくる。
子どもが相談しやすいように、いじめに関するアンケートを子どもが記載しやすい内容に変更するとともに、スクールカウンセラーへの相談方法等を改善する。
自然とのふれあいや森林の適切管理のために、木材を活用したイベントの実施や、学校の授業の中で木材や森林について学ぶ機会をつくる。

## 6 若手起業家とのトークイベント

札幌市内・北海道内の若手起業家が中心となって活動する団体が主催し、札幌市の歴史や現在を振り返り、未来への提言を行うトークイベント（令和4年3月27日開催）において、ビジョン編の説明を行いました。

なお、このトークイベントは、Facebookにおいてライブ配信されました。

## 7 U35-SAPPORO との連携

### (1) U35-SAPPORO キックオフイベント

概ね22歳から35歳の世代が集い、繋がりが生まれるプラットフォーム「U35-SAPPORO」のキックオフイベントに参加し、第2次戦略ビジョン「ビジョン編」の素案について札幌市職員から説明を行いました。

説明の後はワークショップが行われ、企業経営者、デザイナーやライターなどのフリーランス、大学教員、会社員、公務員など、様々な属性・キャリアの参加者約50名が、「札幌市の良いところ」「札幌市への提案」などをテーマに話し合いました。

## ○日程

令和4年5月16日（月）

## ○主な意見・提案内容

「北海道に住んでいる若者が、北海道の魅力を具体的に認識してもらうことがその次の行動につながる」「雪の活用について、ビジネスコンペで優勝賞金を出して良いアイデアを採用して、実行支援までをやってはどうか」 など



## (2) U35 世代から描く札幌の未来

U35-SAPPORO や北海道大学 COI-NEXT「こころとカラダのライフデザイン共創拠点」と連携して、第2次戦略ビジョンをテーマに若者がまちづくりについて考えるトークセッションやワークショップを実施しました。

## ○日程

令和5年1月15日（日）

## ○主な感想

「札幌市に住んでいるが、戦略ビジョンについて知る機会がなかったので、とても良い機会となった」「ウェルネスという観点からまちづくりに向き合うきっかけとなった」 など



## 8 まちづくりコンペティション

市立高等学校の生徒を対象に、第2次戦略ビジョンやSDGsなど、様々な観点からの「まちづくり」に関する提案を募集し、8組のグループより発表いただきました。

### ○日程

令和5年3月19日（日）

### ○提案一覧(発表順)

学校名	提案内容
旭丘高等学校①	札幌の初雪予想
大通高等学校①	ジェンダーフリーについて
藻岩高等学校	まちづくりはひとづくり
清田高等学校①	札幌の若い世代の減少と解決策
清田高等学校②	若者の Third place を守るために
旭丘高等学校②	札幌市の20年毎の人口構成の予測
大通高等学校②	お腹いっぱいフレンズプロジェクト
旭丘高等学校③	北海道における人口増加都市の特徴

